

## 輸入検疫で発見された主な病害虫

平成3年に輸入された植物から発見された重要病害虫は別表のとおりである。

このうち、携帯品として東南アジア地域から持ち込まれた熱帯果実が相変わらず多く、多数のミカンコミバエが発見た。近年、海外旅行先が多様

化しており、アフリカのウガンダ産マンゴウからチチュウカイミバエと同属のナタールミバエが発見されている。また、貨物として輸入されたインドネシア産ショウガからバナナネモグリセンチュウが3回発見されている。

|           | 発見病害虫名                                         | 寄生植物発見回数                       | 輸出国別発見回数                          |
|-----------|------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 輸入禁止品対象害虫 | <i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ            | カキ(2)コーヒー豆(1)オレンジ(1)リンゴ(1)     | アルゼンチン(1)ブラジル(2)スペイン(1)リビア(1)     |
|           | <i>Dacus dorsalis</i> ミカンコミバエ                  | トウガラシ(12)/ミバエ(3)マンゴウ(59)       | タイ(52)台湾(89)マレーシア(5)              |
|           | <i>Dacus cucurbitae</i> ウリミバエ                  | パンレイシ(19)他23種(125)             | 不明(3)他6カ国(69)                     |
|           | <i>Dacus bryoni</i> クインスランドミバエ                 | ヘチマ(3)キュウリ(1)ニガウリ(5)ササゲ(2)     | インド(1)インドネシア(1)タイ(2)フィリピン(2)不明(1) |
| 特定重要病害虫   | <i>Cylas formicarius</i> アリモドキゾウムシ             | インゲン(1)                        | 台湾(3)中国(1)パングラディシュ(1)             |
|           |                                                | オレンジ(1)                        | オーストラリア(1)                        |
|           |                                                | サツマイモ(3)                       | 台湾(3)                             |
|           | <i>Dendroctonus brevicornis</i> アメリカマツノコクイムシ   |                                | アメリカ(1)                           |
|           | <i>Dendroctonus ponderosae</i> アメリカマツノクイムシ     | ストローブマツ(1)                     | アメリカ(3)                           |
|           | <i>Otiorynchus sulcatus</i> キンケクチブトゾウムシ        | ストローブマツ(3)                     | アメリカ(1)                           |
|           | <i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ | ツガ苗(1)                         | アメリカ(2)                           |
|           | <i>Ceratitis rosa</i> ナタールミバエ                  | カラシナ生茎葉(1)アーティチョーク(1)          | アメリカ(2)                           |
|           | <i>Radopholus similis</i> バナナネモグリセンチュウ         | マンゴウ(1)                        | ウガンダ(1)                           |
|           | <i>Pantomorus cervinus</i> フラーバウラムシ            | ショウガ地下部(3)                     | インドネシア(3)                         |
| 害虫        | <i>Zabrotes subfasciatus</i> ブラジルマメゾウムシ        | オレンジ生果実(1)                     | アメリカ(1)                           |
|           | <i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ       | ライマメ(4)ヤエナリ(2)ササゲ(1)ペコパインゲン(3) | ミャンマー(10)                         |
|           |                                                | コーヒーノキ生果実(2)                   | ブラジル(2)                           |
|           | <i>Colletotrichum capsici</i>                  | トウガラシ生果実(6)                    | 中国(3)台湾(1)タイ(1)マレーシア(1)           |

### 海外のニュース

## ハワイでパパイヤリングスポットウイルスが大発生

パパイヤリングスポットウイルス(PRSV)は、パパイヤの重要な病害で、沖縄県や台湾にも発生しており、激しい被害を出している。このPRSVがハワイのパパイヤ主要産地で大発生して問題になっている。

PRSVは、ひと状でPoty-virusグループに属し、種子伝染はしないが、アブラムシで極めて容易に伝染する。パパイヤがPRSVに感染した場合、葉にモザイクを生じ、激しい場合は奇形となる。茎は肥大が抑制されわい化し、果実は表面に輪紋やこぶを生じるため商品価値がなくなる。パパイヤの他にもキュウリやカボチャなどのウリ科植物にも容易に感染するため伝染源となっている。

本病は、1950年代にオアフ島で発見され、その後ハワイ島、マウイ島に発生、1986年にカウアイ島まで広がった。今年になってパパイヤ生産の中心地であるハワイ島/パオア地方に発生が確認され、一部の果樹園では、すでに22%のパパイヤ樹が発

病していることが報道された。このまま放置すると同地方の約1,200haのパパイヤ樹の切り倒しが必要であるといわれ、その被害額は約1,600万ドルに達すると試算されている。このため、ハワイ州政府は本ウイルスを撲滅するため、個人農園への立入り調査や病樹の廃棄命令などの緊急防除を実施中である。

PRSVを防除するためには、本病に罹病したパパイヤやウリ科植物の徹底した採取とアブラムシの防除が必要である。最近では、弱毒ウイルスの利用やPRSVのコートタンパク質を生産する遺伝子をパパイヤに組み込むなどの試みがなされている。(ハワイ報知新聞1992年6月19日より)

発行所 横浜植物防疫所  
〒231 横浜市中区北仲通6-64 ☎(045)211-2299  
発行人 上垣隆夫  
編集責任者 釘持秀禧  
印刷所 内村印刷株式会社